

遷宮こそ日本人の心を 永遠に継承させる唯一の道である

栃木県神社総代連合会

会長 塚 本 美代次



神道は天地悠久の大道であり、基本的原理は大自然と共に生きるそのものであります。神の恵みと祖先の恩とに感謝する、その生活態度こそ明き清き誠の心であります。日本人の神に対する信仰態度には、個人信仰と公の信仰があります。家に神棚を設け、神宮大麻と産土神社^{うぶすな}の御神札を供えて朝夕一家の安全と商の繁昌^{あきない}を祈願すると共に、和やかな家庭と益々の繁栄をお祈りする家族信仰と地域の産土神を中心に、代々祖先から受継がれ本祭りに氏子崇敬者全員が参加して、神のお出ましを仰ぎ氏子崇敬者の御守護と地域の発展向上を祈願してこそ、地域発展の唯一の対策になるものと考えられるのであります。テレビで神社祭礼を大々的に放映して、神社のあり方を一段と高めておることは、国民の神道に対する認識を深めて行く上に最も大切なことと痛感するのであります。

四月五日には天皇陛下より第六十二回神宮式年遷宮に対しての、御聴許が下されたのであります。遷宮は二十年に一度行われる日本最大の祭典であります。これにより日本人の総てが新しく躍進の第一歩となる重要な門出となります。遷宮は遠く奈良時代、天武天皇の御代に始り千三百年の伝統を持つ、意義深い最大の祭りであります。

神宮は一億二千万人の大和民族の大本家とする、皇室の祖先神であり八万神社の本宗と仰ぎ、崇敬の誠を捧げておる中心となるものであります。私共神社人は古来よりの伝統を堅持し、如何なる状況下になるとも式年遷宮を大成功裡に収めることが、私共に課せられた責務であると確信いたします。現今の日本をとり巻く環境は、内外共に厳しいものであります。皆様には益々健康に留意されて、御活躍されることを祈念申し上げます。